



2024年度

# 学修の手引き

Hiroshima City University  
2024 Student Edition Study Guide

情報科学部  
Information Sciences

国際学部  
International Studies

芸術学部  
Arts

## 目次

|                  |    |                              |    |
|------------------|----|------------------------------|----|
| 人材育成の目標及び各ポリシー   |    | 試験と成績                        |    |
| 学士課程             | 2  | はじめに                         | 14 |
| 国際学部             | 2  | 定期試験と随時試験                    | 14 |
| 情報科学部            | 4  | 受験時の注意事項                     | 14 |
| 芸術学部             | 7  | 不正行為                         | 14 |
|                  |    | 追試験                          | 14 |
| 授業等              |    | 成績評価                         | 14 |
| 科目の種類            | 10 | GPA (Grade Point Average) 制度 | 14 |
| 単位               | 10 | 成績発表                         | 15 |
| 授業時間             | 10 | 成績評価に関する異議申立て                | 15 |
| 開講区分             | 10 |                              |    |
| 休講・補講・教室変更       | 10 |                              |    |
| 自然災害や交通機関の運休時の授業 | 11 |                              |    |
| 講義等を欠席する場合の手続き   | 11 |                              |    |
| 担任教員 (担当教員)      | 11 |                              |    |
| 履修               |    |                              |    |
| はじめに             | 12 |                              |    |
| 履修登録             | 12 |                              |    |
| 履修の禁止            | 12 |                              |    |
| 履修登録取消制度         | 13 |                              |    |
| 再履修              | 13 |                              |    |
| 他学部・他学科履修等       | 13 |                              |    |
| 履修登録上限単位数        | 13 |                              |    |

# 人材育成の目標及び各ポリシー

## 学士課程

### 人材育成の目標

広島市立大学は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、幅広い知識と確かな専門性を有し、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の知識・技能・能力を身に付けた上で当該学部が定める審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- ① 多様な文化・価値観を尊ぶための、人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を有している（知識・技能）
- ② 専門領域に関する体系的な知識・技能を身につけている（知識・技能）
- ③ 発見した問題について論理的に考え、判断することができる（思考力・判断力）
- ④ 自らの考えをわかりやすく表現する能力を身につけている（表現力）
- ⑤ 社会的課題の解決ないしは社会との関わりの中での創作活動に向けて主体的に取り組む姿勢を有している（主体性）
- ⑥ 他者と協働して取り組む姿勢を有している（協働性）

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学の学士課程における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

1. 人間、社会、自然、平和に関する幅広い教養と知識・技能を得るため、全学共通系科目を開設する。
2. 多様な文化・価値観に対する理解を深めるのに必要となる外国語によるコミュニケーション能力を養成するため、外国語系科目を開設する。
3. 各学部の理念と専門教育の特色に対応した専門教育科目を開設する。

### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

広島市立大学は、次のような人の入学を求めています。

1. 人間性豊かで、向学心の旺盛な人
2. 知的的好奇心と探究心を持ち、知の創造と活用に意欲のある人
3. 世界平和と地域・国際社会の発展に積極的に貢献したい人

## 国際学部

### 人材育成の目標

国際学部は、グローバル化の進展など社会が変化する中で、豊かな学識と広い視野に基づいて、グローバルな視点から平和で持続可能な国際社会の実現や地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解し、分野を統合して思考し判断することができる人材
2. 社会が抱える諸課題を自発的に見出し、課題の解決に向かって主体的に取り組むことができる人材
3. 多様な価値観を持った人々と対話し、協働して課題の解決に向かって取り組むことができる人材

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の専門的な知識・技能及びそれらを社会で活用するための資質・能力を身に付けた上で、卒業論文を執筆し審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（国際学）」の学位を授与する。

#### [知識・技能]

1. 人文・社会科学の知見や理論についての系統的な知識を身につけている。(知識)
2. 人文・社会科学の分野をまたいで学際的に探求する技能を身につけている。(技能)

#### [思考力・判断力・表現力]

1. 人文・社会科学のさまざまな分野に関する知識や理論を基に社会の諸問題を探求することができる。(思考力)
2. 根拠に基づいて論理的に考え判断することができる。(判断力)
3. 自らの考えを説得的に分かりやすく表現する能力を身につけている。(表現力)

### [主体性・協働性]

1. 社会が抱える課題を自発的に見出し、取り組む姿勢を有している。(主体性)
2. 世界の中で、多様な背景を持った人々とともに生きる社会を築いていくために、他者と協働する態度を有している。(協働性)

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

### (全学共通系科目)

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

### (学際的なカリキュラム編成)

- ・人文・社会科学の分野を幅広く系統的に理解するための学際的なカリキュラムを編成し、分野を統合して思考・判断し、国際社会や地域社会の諸問題を多面的・複眼的に解決できる能力を養成する。

### (専門基礎科目)

- ・国際学部における専門分野を学ぶ上で基礎となる知識と技能を修得し、国際学部での学びを展望することを目的に、専門基礎科目を開設する。(1～2年次)

### (外国語運用能力を発展させる科目)

- ・実践的な外国語運用能力を身に付け発展させるため、国際学部専門科目として英語特講科目群を開設する。また、英語を含む外国語で授業を行う専門科目を各プログラム科目群や国際研究特講科目群に開設する。(1～3年次)

### (専門科目)

- ・専門的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力を高めるため、以下のプログラム分野に専門科目を開設する。専門科目では、人文・社会科学の理論や知見を幅広く系統的に理解するとともに、学際的な視野を開くことを目指す。各プログラムには、1年次に入門科目を配置しており、2年次以降の専門科目へのスムーズな導入を図る。(1～3年次)

#### (1) 国際政治・平和プログラム

紛争、テロ、難民、開発、環境などの地球規模の課題を解決するため、国際関係の理論や歴史、平和研究の方法や実践について学ぶ科目

#### (2) 公共政策・NPOプログラム

望ましい社会を創造するため、人々の生活の基礎である経済や社会のあり方、市民・NPO・政府などが果たす役割について学ぶ科目

#### (3) 多文化共生プログラム

国家、地域、民族、文化の垣根を越えて、多様な考え方を持つ人々との共生に関する理論や実践について学ぶ科目

#### (4) 国際ビジネスプログラム

経営学や経済学上の諸問題など、国際的な視点からビジネスについて学ぶ科目

#### (5) 言語・コミュニケーションプログラム

人間の社会的営みの基礎である言語・コミュニケーションに関する諸問題を学ぶ科目

### (演習科目、卒業論文)

- ・発表や討論などの主体的な学修を重視する少人数双方向での演習科目を、1年次から4年次まで継続して開設する。自らのテーマを多面的に追究するため、3年次には複数の専門演習の履修を可能とする。各年次の演習は、国際学部における学修の集大成としての卒業論文に有機的につながる指導と結び付ける。

- (1) 国際学部における学びに必要な知識・技能や協働性に加え、関心・意欲を持って学び続ける態度を身に付ける基礎演習（1年次）
- (2) 専門分野を見極め、論理的な思考力・判断力・表現力に磨きをかける発展演習（2年次）
- (3) 専門性を磨き、応用力を養うための専門演習（3年次）
- (4) 自らのテーマを専門的かつ総合的に追究し、学修の集大成として卒業論文を執筆する卒論演習（4年次）

### (少人数教育)

- ・演習や各授業クラスを少人数で編成し、対話を通じた主体的で深い学びを推進するとともに、少人数教育ならではの濃密できめ細かな指導を行う。

### (キャリア教育)

- ・各学年の演習科目では、各自の学修プランを基に、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する。

### (グローバル人材育成)

- ・グローバルな視点から国際社会や地域社会に貢献できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外インターンシップなど、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

### (地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、地域再生や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を開設する。

### (評価)

- ・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。
- ・専門科目のプログラム科目群の1つで、所定の単位数を修得した場合、当該プログラム領域を主専攻として専門に履修したことを認定する。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

複雑化する国際社会及び地域社会においては、単一の学問分野のみならず、領域を超えた幅広いアプローチから課題の解決に取り組むことが必要です。

国際学部では、豊かな学識と幅広い視野に基づいて、平和で持続可能な国際社会や地域社会の実現に貢献できる人材の育成を教育理念としています。

そのため、国際学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

#### [求める人物像]

##### (関心・意欲)

国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち、かつその解決に意欲を持つ人。

##### (知識・技能)

国際学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき現代社会についての基本的な知識・教養を持っている人。また、外国語を含む言語の基本を修得し、基本的な運用能力を身に付けている人。

##### (思考力・判断力・表現力)

- ・社会の諸課題について、根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめることができる人。
- ・日本語と外国語を使って、自分の考えを分かりやすく表現できる人。

##### (主体性・協働性)

- ・何事にも主体性を持って行動し、海外留学やさまざまな活動に積極的に関わる意欲を持つ人。
- ・国際社会や地域社会における人間の営みに関する諸課題の解決に向けて、さまざまな意見を持つ人とも対話し、協働する姿勢を持つ人。

## 情報科学部

### 人材育成の目標

情報科学部は、以下の専門分野における基本的な知識・技能を基に、高度情報化社会を支え創造していくことができる人材を育成します。

#### [情報工学分野]

コンピュータやネットワークなどの情報基盤技術に関する分野

#### [知能工学分野]

人工知能を支える数理、知識情報処理、ソフトウェア技術に関する分野

#### [システム工学分野]

情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術に関する分野

#### [医用情報科学分野]

情報科学・自然科学・工学を基に、医用、生命、環境などへの活用技術に関する融合分野

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

情報科学部は、下記に挙げる3つの観点における能力を修得した者に対して卒業を認定し、次に示すように、修得した内容に応じて「学士（情報科学）」または「学士（情報工学）」を授与する。

- ・学士（情報科学）：情報科学における真理の探究に必要となる能力を主に修得した者
- ・学士（情報工学）：情報科学の利活用による課題解決に必要となる能力を主に修得した者

#### [知識・技能]

1. 多様な文化・価値観を尊ぶための人間、社会、自然に関する幅広い知識を身に付けている。(知識)
2. 情報科学または情報工学における技術者や研究者に求められる基本的な知識を身に付けている。(知識)
3. 情報科学または情報工学の課題に取り組み、結果や考察を理論的に記述することができる。(技能)
4. 国際的なコミュニケーションのための基礎的な語学力を身に付けている。(技能)

#### [思考力・判断力・表現力]

1. 情報科学または情報工学における知識・技能に基づき、論理的・合理的に思考・判断することができる。(思考力・判断力)
2. 技術者・研究者として自分の考えを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。(表現力)

#### [主体性・協働性]

1. 情報科学の切り口から真理の探求または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。(主体性)
2. 多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組むことができる。(協働性)

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報科学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

#### (全学共通系科目)

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

#### (情報科学系・情報工学系科目)

- ・急速に発展する情報通信技術（ICT）に適応しながら次世代の情報化社会を創造する人材を育成するため、情報科学、情報工学、計算機科学、計算機工学とその応用を修得する次の2系統の科目を学部共通科目・専門基礎科目・専門科目のそれぞれに編成する。

- (1) 情報科学系科目：高度情報化社会を支える技術の基盤となる自然科学とその応用に関する科目
- (2) 情報工学系科目：高度情報化社会を実現するために必要な知識と基礎技術及びその応用に関する科目

#### (数学、プログラミング及び英語の重点的な教育)

- ・情報科学または情報工学を学ぶ上で特に重要な基礎科目である数学、プログラミングは1～2年次に、英語は1～3年次に重点的な教育を行う。教育にあたっては、コンピュータ及び情報関連機器を用いた情報処理能力が身に付くように、継続的に情報機器の利用とそれによる学習が可能になるように配慮する。また、英語教育については、一般的な内容から専門分野における内容まで学習できるように科目を配置する。

#### (学部共通科目)

- ・情報科学または情報工学の基礎的・普遍的な知識・技能を修得するため、学部共通科目を開設する。また、学部共通科目を履修した上で、学生一人ひとりの興味関心、適性に基づいて専門分野を適切に選択できる仕組みを導入する。

#### (専門基礎科目)

- ・各学科の専門分野における基礎的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門基礎科目を主に2年次に開設する。
  - (1) 情報工学科：技術者や研究者に求められる情報工学の基本的な知識が身に付くように、コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の分野を横断した内容の科目を2・3年次に配置する。
  - (2) 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした知能工学全般に共通して必要な能力を身に付けるための専門基礎科目を2年次に配置する。
  - (3) システム工学科：システム工学科では、情報システム全体の調和と協調を図った創造的なシステム化技術を学ぶ。それに必要となる数学・情報・工学に関する基礎的な科目を2年次に配置する。
  - (4) 医用情報科学科：医用情報科学または医用情報工学分野などの異分野融合領域を支える3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を専門基礎として開設する。

#### (専門科目)

- ・各学科の専門分野における専門的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を修得するため、情報科学及び情報工学に関する専門科目をそれぞれ主に3年次に開設する。
  - (1) 情報工学科：3年次にコンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション基盤の各分野における専門性を高める専門科目を配置する。



- (2) 知能工学科：知識情報処理、メディア情報処理、及びそれらに関連する数理を中心とした各知能工学分野の専門的な能力を身に付けるための専門科目を3年次に配置する。
- (3) システム工学科：体系的に専門知識が身に付くようにシステム基礎、ロボット・人間共生、インタフェースデザインの各専門系列科目を3年次に配置する。
- (4) 医用情報科学科：専門基礎科目を土台として、3つの普遍的学問領域（情報系科目、工学系科目、自然科学系科目）を医用、生命、環境などへ応用展開する医用情報科学系科目を開設する。

#### (実験科目、卒業研究)

- ・実験、演習、口頭発表などの体験的・総合的な学修を重視した以下の科目を開設する。
  - (1) 学部共通科目で習得した知識を具体的な問題に適用する能力を育成する実験科目
  - (2) 専門基礎科目・専門科目で習得した知識を具体化させ、思考力・洞察力を養い、実際の問題・課題を解決する能力を育成する実験科目
  - (3) 研究に対する方法論、問題解決力を身に付け、研究の成果・意義・有用性を論理的にまとめ、発表・討論する能力を育成する以下の2種類のテーマでの卒業研究
    - ・情報科学・自然科学における真理の探究を目的としたテーマ
    - ・情報科学の利活用による課題解決を目的としたテーマ

#### (学生の多様化への対応)

- ・少人数教育、習熟度別のクラス編成、主体的・対話的で深い学びの推進などにより、知識や学力の多様化した学生に対して効果的な教育を行う。

#### (キャリア教育)

- ・技術者・研究者としての使命感・倫理観の養成、実社会において求められるスキルやコミュニケーション能力、社会人としての資質を育み、学生のキャリア形成を支援する科目を1～3年次に開設する。

#### (グローバル人材育成)

- ・技術者・研究者としてグローバルに活躍できる能力を養成するため、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学、海外での研究発表など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

#### (地域志向人材育成)

- ・地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、情報科学を用いた地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を1～3年次に開設する。

#### (評価)

- ・上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

科学技術の発展による高度情報化社会の到来に伴い、我が国を取り巻く産業・社会構造は年々複雑化し続けています。

情報科学部では、このような複雑化する社会に対応するため、情報工学・情報科学分野の基礎知識・能力及び専門学識・技術を身に付け、高度情報化社会を支える人材の育成を教育理念としています。

そのため、情報科学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

#### [求める人物像]

##### (関心・意欲)

情報工学・情報科学に関心があり、自ら積極的に情報工学・情報科学を学修する意欲を持つとともに、学んだことを活用して国際社会や地域社会の発展に貢献したいという大志を抱いている人。

##### (知識・技能)

情報工学・情報科学を学ぶ上で土台となる高等学校等で修得すべき数学、理科及び語学の知識・技能を有している人。

##### (思考力・判断力・表現力)

- ・物事を多面的にとらえ、論理的・合理的に思考して判断することができる人。
- ・自らの考えを分かりやすく説明するよう努力できる人。

##### (主体性・協働性)

- ・情報科学の切り口から真理の探究または社会的課題の解決に向けて主体的に取り組む熱意を持っている人。
- ・多様な価値観や新たな技術・知見を受け入れ、課題の解決に向けて協働して取り組む熱意を持っている人。

### 人材育成の目標

芸術学部は、創造性、先見性及び独創性に富み、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材を育成することを教育理念とし、次のような人材を育成します。

1. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、創造性に富んだ創作と先見性、独創性に富んだ表現・研究を発信できる人材。
2. 美術、デザイン・工芸に関する専門性の高い知識と技術を基に、地域や産業などさまざまな社会分野において、文化芸術の創造及び発展に貢献できる人材。

### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

芸術学部では、所定の期間在学中に、所定の単位を修得し、卒業制作を行い、審査に合格した学生に対して卒業を認定し、「学士（芸術）」の学位を授与する。なお、学生が卒業までに求められる3つの観点の能力を次に挙げる。

#### 【知識・技能】

##### 〈美術学科〉

以下のいずれか1つの専攻における専門的な知識・技能を有している。

##### （日本画専攻）

1. 日本画における伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 日本画に関する独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

##### （油絵専攻）

1. 油絵における西洋の伝統的な絵画表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 油絵に関する独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

##### （彫刻専攻）

1. 彫刻における伝統的な表現の知識を身に付けている。（知識）
2. 現代における独創的な創作をする技能を身に付けている。（技能）

##### 〈デザイン工芸学科〉

現代表現、視覚造形、映像メディア造形、立体造形、金属造形、染織造形、漆造形のいずれか1つの分野における専門的な知識・技能を有している。

1. デザイン工芸の各分野における歴史的変遷を理解している。（知識）
2. 社会や生活に関わる作品を創作するための造形技術を身に付けている。（技能）

#### 【思考力・判断力・表現力】

1. 次代の文化芸術を創造するために、柔軟に想像したものを論理的に構想することができる。（思考力）
2. 創作過程における問題に対して、効果的な解決策を見出すことができる。（判断力）
3. 作品と言葉によって、創作に込めた自らの考えを的確に他者や社会に伝えることができる。（表現力）

#### 【主体性・協働性】

1. 社会との関わりの中で、自らの感性を創作に生かそうとする姿勢を有している。（主体性）
2. 自らの創作を通じて、他者と協働する姿勢を有している。（協働性）

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

芸術学部が掲げる学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程を次のように編成する。

#### （全学共通系科目）

- ・幅広い教養・知識の修得を通じ、多様な価値観を尊び平和を希求する精神や感性豊かな人間性を涵養するとともに、グローバル化・情報化等に対応できる能力を身に付けるため、全学共通系科目・外国語系科目を教育課程に組み入れる。

#### （芸術学部のカリキュラム編成）

- ・学位授与の方針に掲げる基準を達成させるため、各学科・専攻に関わる基礎的な知識や技能を修得できる科目（専門基礎科目）と、専門知識や独創的な表現を修得できる科目（専門科目）を体系的に配置する。専門科目では、学年に応じて、実習・演習を段階的に配置し、創作の基礎力、応用力、展開力を養う教育を行う。

#### （専門基礎科目）

- ・主に1・2年次で、芸術の理論、歴史、技術や素材等に関する基礎的な知識・技能を身に付けるための科目を配置する。



### (専門科目)

- ・ 専門的な知識・技能を段階的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付け、創作を通じて主体性、協働性を養うための実習・演習を主とした科目を配置する。3年次では国内外の古典芸術について事前調査・実地研究を行い、より専門的な知見を深めるための科目として、「古美術研究」を配置する。4年次では主体的に創作を行い、プレゼンテーション能力を含む表現力を修得するための科目として、「卒業制作」を配置する。

#### [美術学科日本画専攻]

- ・ 1・2年次では絵画表現の基礎となる観察力、描写力、技法材料への知識を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 3年次には1・2年次で養った基礎力を各課題で反復応用し、独創性を涵養するための科目を配置する。
- ・ 4年次にはこれまでに修得した創作能力を活かし、幅広い知識とプレゼンテーション等を含む絵画の表現力と、他者との協働性を身に付けるための科目を配置する。

#### [美術学科油絵専攻]

- ・ 1・2年次では絵画表現の基礎として、観察力と描写力を主とした造形及び創作を行う知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 3年次には1・2年次の習作を通して養った能力を、自身の表現へ昇華させるための科目を配置する。また、他者と協働できるよう、プレゼンテーション能力を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 4年次にはこれまでに修得した知識・技能・思考力・判断力・表現力を、独創性へと高めるための科目を配置する。

#### [美術学科彫刻専攻]

- ・ 1・2年次では、彫刻表現の基礎となる造形力及び彫刻制作の知識・技能を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 3年次では1・2年次に養った造形力と知識・技能を用い、他者と協働しながら自身の考えを作品として表現する応用力を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 4年次にはこれまでに修得した造形力及び知識・技能を深め、プレゼンテーション能力を含む創作者としての展開力を身に付けるための科目を配置する。

#### [デザイン工芸学科]

- ・ 1年次では、デザイン工芸で必要となる能力のうち、知識、技能及び思考力を中心としてその基礎を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 2年次では、学生の指向性と7つの専門分野を対応させ、各分野における専門的な知識、技能及び思考力を身に付けるための科目を配置する。
- ・ 3年次では、2年次までに養った能力をさらに発展させ、創作に必要な判断力や表現力、主体性を身に付けるための科目を配置する。また、グループ展の企画・運営を通じて、協働性を涵養するための科目を配置する。
- ・ 4年次では、これまでに修得した能力を統合的に応用し、作品を制作する表現力と、作品制作から展示までの過程を通じて主体性、協働性を高めるための科目を配置する。

### (キャリア教育)

- ・ 芸術の専門的な知識・技能を生かして社会で活躍できる能力を養成するため、専門科目の中で学生のキャリア形成を支援する教育を行う。

### (グローバル人材育成)

- ・ グローバルな視点に立った創作を行うことができるよう、海外学術交流協定大学への学生派遣や短期語学留学など、国際感覚を養う教育活動への学生の参加を促進する。

### (地域志向人材育成)

- ・ 地域に愛着・誇りを持ち、地域に根ざした視点から、その発展に貢献する人材を育成するため、芸術による地域振興や地域の課題解決を実践的に試行する科目などの地域志向科目を配置する。

### (評価)

- ・ 上記科目における知識、技能、表現力については、卒業制作などから総合的に評価を行い、専門教育課程を継続的に評価・検証する。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国際化や情報化の急激な進展などにより社会の急速な変化や価値観の多様化が進む中、社会に豊かさをもたらす芸術の社会的役割はますますその重要性を高めています。

芸術学部では、創造性に富んだ創作を行うための専門的な知識と確かな技術を備え、文化芸術の創造及び発展に貢献できる先見性、創造性及び独創性に富んだ人材の育成を教育理念としています。

そのため、芸術学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような多様な人物を求めています。

[求める人物像]

(関心・意欲)

芸術に関心があり、創作・表現に意欲を持ち、創作を通じて国際社会や地域社会の発展に貢献したいと考えている人。

(知識・技能)

高等学校等で習得すべき知識・技能を持ち、創作・表現を学ぶための基礎的な技術・感性を備えている人。

(思考力・判断力・表現力)

関心を持ったことを深く思考し、自らの考えを作品や言葉によって表現できる人。

(主体性・協働性)

創作、協働に対して積極性、主体性を持って取り組み、創作を通じて国際社会や地域と関わりたい人。

# 授業等

## 科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、大学からの説明では、科目の性質によって以下のように区分されることがありますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程《2024年度入学生版》を参照してください。

- ◆ 必修科目  
卒業のために必ず取得しなければならない科目です。
- ◆ 選択科目  
複数の科目の中から、いくつかを選択することのできる科目です。卒業要件（教育課程《2024年度入学生版》）をよく理解したうえで選択する必要があります。
- ◆ 自由科目  
興味関心に応じて自由に選択することのできる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

## 単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。

1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間、合わせて45時間の学修をする必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

| 区分             | 大学の授業での学修時間 | 授業時間外の自主的な学修時間 | 合計   |
|----------------|-------------|----------------|------|
| 講義             | 15時間        | 30時間           | 45時間 |
| 演習             | 30時間        | 15時間           | 45時間 |
| 実験<br>実習<br>実技 | 30～45時間     | 0～15時間         | 45時間 |

## 授業時間

日々の授業は次の時間に行われます。

|     |       |   |       |
|-----|-------|---|-------|
| 1時限 | 9:00  | ～ | 10:30 |
| 2時限 | 10:40 | ～ | 12:10 |
| 3時限 | 13:00 | ～ | 14:30 |
| 4時限 | 14:40 | ～ | 16:10 |
| 5時限 | 16:20 | ～ | 17:50 |
| 6時限 | 18:00 | ～ | 19:30 |

注) 6時限は補講用で、通常の授業は行いません。

## 開講区分

本学は2学期制（セメスター制）と各期をさらに半分に分けた4学期制（クォーター制）を併用して授業を開講しており、授業科目は開講区分により、次のように分けられます。

| 通年科目     | 年間を通して開講     |
|----------|--------------|
| 前期科目     | 前期半年間に開講     |
| 第1ターム科目  | 前期半年間の前半に開講  |
| 第2ターム科目  | 前期半年間の後半に開講  |
| 後期科目     | 後期半年間に開講     |
| 第3ターム科目  | 後期半年間の前半に開講  |
| 第4ターム科目  | 後期半年間の後半に開講  |
| 集中講義科目 ※ | 特定の期間に集中して開講 |

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により集中開講となるものです。

| 通年    |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 前期    |       | 後期    |       |
| 第1ターム | 第2ターム | 第3ターム | 第4ターム |

- ◆ 2学期制（セメスター制）  
セメスター制では、週1コマ×16週（試験を含む）を基本とします。英語以外の外国語系科目のような演習科目のほか、実験・実習・実技科目は、単位数によって週2～3コマ×16週で開講されることもあります。
- ◆ 4学期制（クォーター制）  
4学期制（クォーター制）では、科目の特性や学修効果により、次のパターンがあります。  
(1) 週2コマ×8週（試験を含む）  
月曜日1コマと水曜日1コマなどで2コマ、火曜日の1、2限連続などで2コマ等、週2回授業を行います。  
(2) 週1コマ×8週（試験を含む）  
これまでのセメスター科目を二つに分ける場合で、単位数も半分になります。

## 休講・補講・教室変更

休講・補講・教室変更がある場合には、大学事務局や教員から連絡がありますので、大学付与のメールアドレスへのメールなどを必ずチェックしてください。

## 自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

### 1 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合  
ア アストラムライン及び高速4号線を通過する広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止  
イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

### 2 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
  - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
  - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

### 3 避難情報の「警報レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても、「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

### 4 その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

## 講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

## 担任教員（担当教員）

大学生活で困ったことがあった場合に相談ができる、担任教員制度を設けています。

各学部の担任教員は次のとおりです。

| 学 部   | 担任教員   |
|-------|--|
| 国際学部  | 1年 基礎演習担当教員<br>2年 発展演習担当教員<br>3年 専門演習担当教員<br>4年 卒論演習担当教員 |
| 情報科学部 | 1年 各クラスのチューター<br>2年～講座配属まで 各学科のチューター<br>講座配属後 各講座の教員     |
| 芸術学部  | 各学科専攻の教員   |

※詳細は、別途お知らせします。

# 履修

## はじめに

履修とは、卒業に必要な授業科目を受講し単位を修得することを意味します。履修する科目は、以下の資料を参考にしながら決定してください。4年間で何を、どう学びたいかを考えながら計画的に履修しましょう。

- ◆ 教育課程表（教育課程《2024年度入学生版》）  
学位を取得する（卒業する）ために学部・学科ごとに提供されている授業科目を表にしたものです。入学年度により内容は異なります。
- ◆ カリキュラムマップ（Web公開）  
ディプロマ・ポリシー（2～8ページ）と各授業科目との関連性を示した表です。各授業科目が卒業までに身につけるべき能力のどの項目と関連するのかが分かります。
- ◆ カリキュラムツリー（シーケンス）（教育課程《2024年度入学生版》）  
各授業科目の関連性や対象年次、学修の順序などを図示したものです。教育課程（カリキュラム）全体を把握し、4年間の履修計画を立てる手掛かりになります。
- ◆ 時間割表及び集中講義日程表（Web公開）  
各授業科目の時間割表及び集中講義日程表はWebで公開されます。履修したい科目どうしの時間割が重複しているなど、時間割上の制約がある場合がありますので、先を見通して計画的に履修しましょう。
- ◆ シラバス（Web公開）  
各授業科目の到達目標や授業計画、内容、成績評価基準などを示したものです。その授業科目で何が学べるのか、何が身につくのかを知ることができます。  
また、授業科目を履修する上でのルールが示されているので、十分に理解しておくようにしましょう。

## 履修登録

履修登録とは、履修しようとする科目を登録し、単位を修得するための必須の手続きです。これを怠ったり誤ったりすると単位が認定されません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。

以下の流れで手続きを行いますので、上述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。

### (1) 履修登録期間

履修登録はWeb上から手続きを行います。指定の期間に正しく登録してください。なお、学年により登録できる科目が異なりますので注意してください。

1～3年生：学期ごとに履修科目を登録

4年生：前期に前期・後期両方の履修科目を一括登録

### (2) 履修確認期間

履修確認期間は(1)の期間に登録した科目を訂正（追加・削除）できる期間です。自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間以降に訂正することができません（後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く）ので注意してください。

| 科目種別                         | 2024年度 日程                 |                             |
|------------------------------|---------------------------|-----------------------------|
|                              | 履修登録                      | 履修確認                        |
| 前期科目<br>(第1ターム科目・第2ターム科目を含む) | 4月3日(水)～<br>4月12日(金) 17時  | 4月22日(月)～<br>4月24日(水) 17時   |
| 後期科目<br>(第3ターム科目・第4ターム科目を含む) | 9月24日(火)～<br>10月7日(月) 17時 | 10月16日(水)～<br>10月18日(金) 17時 |

### (3) 履修確定

(1)、(2)の期間を経て履修登録内容を確定します。前期は5月上旬、後期は10月下旬頃を予定しています。履修確定後、4年生で卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

### ◆ 履修登録に関する相談

履修登録について分からないことや迷うことがあるときは、そのままにせず担任教員（11ページ）や事務局教務グループに相談しましょう。

また、履修登録期間中には、学生が履修登録に関する相談に応じるブースを設けています。教職課程を履修している学生や大学院生など、経験豊富な学生からアドバイスが受けられます。気軽に利用してください。

## 履修の禁止

次に掲げる授業科目は履修することができません。

- ◆ 履修登録をしていない授業科目
- ◆ 既に単位を修得した科目

## 履修登録取消制度

いったん履修登録を確定させた授業科目について、履修登録を取り消すことができる制度です。授業の内容が自分の勉強したいものと違って、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合には、履修登録取消期間内（科目の開講区分ごとに定める）に手続きを行いましょ。ただし、必修科目や取り消しができないとシラバスに明記された科目は、対象外です。

### <履修登録取消期間>

| 科目種別           | 期間の考え方等                                   | 2024年度の日程  |
|----------------|---|--|
| 前期科目、後期科目、通年科目 | 当該科目の履修登録期間終了日から4週間が経過した後の土日祝を除く3日以内      | 前期<br>5月20日(月)～<br>22日(水) 17時<br>後期<br>11月6日(水)～<br>8日(金) 17時  |
| ターム科目          | 授業開始から2週間が経過した後の土日祝を除く3日以内（履修確認期間に手続きが必要） | 第1ターム<br>4月22日(月)～<br>24日(水) 17時<br>第2ターム<br>6月24日(月)～<br>26日(水) 17時<br>第3ターム<br>10月16日(水)～<br>18日(金) 17時<br>第4ターム<br>12月11日(水)～<br>13日(金) 17時 |
| 集中講義科目         | 当該科目の初回授業日の2週間前まで（以降の取消期間内での取消不可）         | —  |

(この制度は、GPA制度の導入に伴って設けられた制度です。GPA制度の詳細については14ページをご覧ください。)

## 再履修

単位の修得が認められなかった授業科目について、次年度（又は次学期）に再履修することができます。ただし、再履修に当たっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

## 他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、授業科目の担当教員等の承認が必要となるなど、所定の手続きがありますので、教務・学部運営室教務グループに相談してください。

## 履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、1学期に履修登録

できる単位数の上限を24単位と定めています。ただし、自由科目及び資格取得関係科目（教育課程《2024年度入学生版》）、長期休業期間（夏季休業、学年末休業）に実施される集中講義科目は、履修登録上限の対象としません。

※CALL英語集中、eラーニング英語を含む、前期・後期授業期間中に実施される集中講義については、履修登録上限単位数に含めます。

### <成績優秀者の特例>

情報科学部では、早期卒業適格認定者等、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた学生は、上限を超えて履修登録することができます。（早期卒業制度については、19ページをご覧ください。)



# 試験と成績

## はじめに

授業科目の単位の認定は、原則として試験によって行われます。ただし、授業科目によっては担当教員の判断によって、レポートあるいはその他の課題を課すことにより試験に替える場合があります。なお、この場合原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、評価の対象外となります。

## 定期試験と随時試験

- ◆ 試験は学期末等に期間を定めて実施する定期試験と、授業期間中に随時行う試験があります。
- ◆ 定期試験は、原則として出席回数が授業実施回数の3分の2以上なければ、当該授業科目の試験を受けることができません。

## 受験時の注意事項

- ◆ 定期試験の際は座席を指定する場合がありますので、早めに入室して自分の座席を確認してください。
- ◆ 受験の際は、担当教員の指示に従ってください。教員が指示したものの以外は机の上に置くことはできません。
- ◆ 受験の際は、机上番号札の手前に学生証を置いてください。
- ◆ 学生証を忘れた場合は、試験開始までに教務・学部運営室教務グループで仮学生証の交付を受けてください。
- ◆ 原則として試験開始後20分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長は行いません。

## 不正行為

試験におけるカンニングや成績評価の対象となるレポート課題の剽窃行為（他人の文章等の盗用）などの不正行為を行った者には厳重に対処します。不正行為を行った場合は、原則としてその学期に履修した授業科目の全科目を不合格とする処分を行います。

## 追試験

定期試験を欠席した者に対しては特別な救済措置は行いません。ただし、以下に掲げる理由により、やむを得ず受験できなかった者は、受験できなかった理由を証明する書類を添え、追試験の申請を行うことができます。

- ◆ 本人の病気又は怪我
- ◆ 事故や自然災害等による公共交通機関の遅延
- ◆ 2親等以内の親族の葬儀への参列
- ◆ その他やむを得ない理由と副学長（教育・学生支援担当）が認めたもの

なお、追試験の実施日については原則として、欠席した試験日から3週間以内となっています。申請は欠席した試験日から1週間以内ですので追試験の実施を希望する場合は、速やかに教務・学部運営室教務グループに相談してください。

## 成績評価

- ◆ 成績は、試験、実技、実習、レポートの成績及び授業等への参加状況を総合して評価します。
- ◆ 成績の表示は次のとおりとし、秀、優、良、可を合格とし、所定の単位が与えられます。

| 評価 | 評点（試験等の得点） | GP | 合否  |
|----|------------|----|-----|
| 秀  | 90点～100点   | 4  | 合格  |
| 優  | 80点～89点    | 3  |     |
| 良  | 70点～79点    | 2  |     |
| 可  | 60点～69点    | 1  |     |
| 不可 | 59点以下      | 0  | 不合格 |

※定期試験を受験していない場合、定期試験に代わるレポート課題を提出していない場合又は出席回数が授業の3分の2に満たない場合は、「不可\*」と表示します。

- ◆ 評価の内容
  - 秀・・・科目の到達目標を十分達成し、到達目標を超えた極めて優秀な成果をおさめている。
  - 優・・・科目の到達目標を十分達成している。
  - 良・・・科目の到達目標を達成している。
  - 可・・・科目の到達目標を最低限達成している。
  - 不可・・・科目の到達目標を達成していない。

## GPA (Grade Point Average) 制度

本学では、学生の皆さんの成績評価にあたって、GPA制度を導入しています。GPA制度は、Grade Point Average制度の略称で、米国をはじめ諸外国の大学で採用されている国際的な成績評価システムであり、日本においても多くの大学で採用されているものです。

GPA制度は、成績評価を受けた授業科目ごとの5段階評価を4から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して得られる1単位当たりの平均値です。ただし、自由科目は算定に含めません。

$$GPA = \frac{\text{成績評価を受けた授業科目のGP} \times \text{当該授業科目の単位数の合計}}{\text{成績評価を受けた授業科目の単位数の合計}}$$

## 成績発表

成績は、確定次第大学のポータルサイトで確認することができます。ただし、成績証明書への記載は学期末になります。各学期の初めには、前の期の成績表をポータルサイトからダウンロードすることができます。

## 成績評価に関する異議申立て

成績評価に関して疑問や質問がある場合は、まず、授業担当教員に説明を求めてください。授業担当教員による説明に納得がいかない場合は、成績評価に関する異議申立てを行うことができますので、教務・学部運営室教務グループに相談してください。

ただし、異議申立ての期間は、当該授業の成績開示後1週間以内となっていますので、注意してください。

なお、異議申立てに対する回答は、原則として、申立書受理日から2週間以内に行いますが、異議申立てに対する回答に対しての再異議申立てはできません。

相談窓口

教務・学部運営室  
教務グループ



〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号 <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/>